

九州保健福祉大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州保健福祉大学（大学院：社会福祉学研究科・保健科学研究科・医療薬学研究科）

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全学共通目標	各研究科別計画・対策
教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	◆3つのポリシーを明確に示し、それらを踏まえた学修成果の可視化を図り、大学院生が自らの学びを振り返り展望することができる体制を構築する。 ◆時代のニーズに対応したカリキュラムおよび指導体制の検討・検証を引き続き行う。
研究力	1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	◆各研究室や教員個々の研究力向上を図り、国内外の学術論文発表数を増やす対策を講じる。
募集力(ブランド力)	1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	◆定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。 ◆各研究室や教員個々の研究・指導内容に関する情報発信を行う。
地域活性化	1) 地域活性化の為に拠点創生 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	◆大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。
2023年度の総評 (今年度の取組)	教育力(使命・目的等を含む)	・社会福祉学研究科では、学習のしおりに教育方針として明示した3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化を図る機会として、夏・冬期スクーリング時に大学院生および研究科教員全員参加による研究テーマ・計画・中間・成果発表会を継続して実施した。また、指導体制の充実を図る取り組みでは、博士（前期/後期）課程研究指導教員1名を加えた。 ・保健科学研究科では、学生との意見交換を円滑に行い、適切な教育ができるようWEB体制を充実させた。6台のコンピュータを新たに導入し、研究教育並びに事務処理が滞りなく行えるようになった。 ・医療薬学研究科では、大学院生の指導体制の確認を教授会や研究進捗報告会で行った。講義は、前年度と同様のカリキュラムで実施した。3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化を図る目的で、大学院生が自らの学びをユニバ上で記録して自ら振り返って展望できる体制とした。また大学院生がこのような学びを自ら展開しやすいよう、大学院生のスケジュールに即した指導体制を展開した。
	研究力	・社会福祉学研究科では、国内査読付き5報、紀要等3報、報告書2報であった。 ・保健科学研究科では、査読付き採択論文数は、国内9報、国際8報であった。 ・医療薬学研究科では、各大学院教員の研究の進捗度、薬学科と連携して引き続きリトリートにおいて可視化した。また薬学科と連携して各講座の研究力向上を図る目的で、講座費が今年度より講座一律に措置された。これらの取り組みが現時点で即時的に学術論文発表数増加につながったという効果は確認できていない。査読付き採択論文数（2023年度中に集計された2022年度分）は、国内5報、国際10報であった。
	募集力(ブランド力)	・社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続して実施した。博士（前期）課程から博士（後期）課程への進学も促し、1名の進学者があった。 ・保健科学研究科では、YouTubeにて3名の教員紹介を行い、具体的な研究イメージが描けるようにした。 ・医療薬学研究科では、社会人を対象とした広報活動を地域の薬剤師会や学会を通じて実施したが、今年度の入学者は1名に留まった。

	地域活性化	・社会福祉学研究科では、QOL研究機構社会福祉学研究所を活用した取り組みを継続して行い、社会福祉学部と連携して実施したイベント3件、調査研究2件を活動報告書としてまとめ、公表した。 ・医療薬学研究科では、現時点で在籍する大学院生は勤務先の医療現場において責任ある地位に就いており、大学院生を通じて大学院と医療現場は連携できる体制となっている。地域の活性化に資するアウトリーチとして、薬学科と連携して開催された「宮崎県北サイエンスフォーラム」において、6名の大学院教員が研究内容をPRしたが学外参加者は4名であった。
--	-------	--

2024年度への展望 (来年度の計画案)	教育力(使命・目的等を含む)	・社会福祉学研究科では、3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化を図る取り組みを継続して実施する。また、指導体制の充実を図る取り組みについても継続する。 ・保健医療学研究科では、学習成果可視化の一環として、院生の研究進捗状況をGoogleスプレッドシートなどに記載し、指導教員と一体化した教育を行う。 ・医療薬学研究科では、次年度も指導体制を点検する。大学院生の満足度が高い教育力を維持していく。
	研究力	・社会福祉学研究科では、地域における中核的な研究拠点として、本学の研究経費助成・地域創生事業経費助成やQOL研究機構社会福祉学研究所の研究助成等も活用して、積極的な研究活動を促す。また、大学院生との共同研究も積極的に進めていく。 ・保健医療学研究科では、博士課程後期の研究内容を、本学の査読付きジャーナルなどに投稿し研究力を向上させる。 ・医療薬学研究科では、各大学院教員が研究論文発表数を増やせるよう、今年度の支援体制を継続する。研究分野により1報の論文完成までの平均的な所用期間は異なるものの、各大学院教員が年1報程度は論文発表できることを目指す。最近数年間論文発表ができていない大学院教員には、投稿先の選択肢として本学の査読付きジャーナルも奨める。
	募集力(ブランド力)	・社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続する。 ・保健医療学研究科では、YouTubeへの教員紹介を複数名行い、研究内容の周知を試みる。 ・医療薬学研究科では、定員充足に向けて特に社会人が大学院に求めるニーズに応えていく必要がある。地域の病院/薬局に在籍の本学卒業生などを中心に学位取得のメリットをPRする。
	地域活性化	・社会福祉学研究科では、社会福祉学部と連携して、QOL研究機構社会福祉学研究所を活用した取り組みを継続する。 ・保健医療学研究科では、地元の医療施設との共同研究により、地域の知の向上を図る。 ・医療薬学研究科では、今年度の活動を継続するとともに、地域における存在感を高められるよう、HPでも大学院教員の研究成果をPRしていく。地域の薬剤師会・病院薬剤師会/高校/中学と共同研究を行い、「宮崎県北サイエンスフォーラム」での発表を通して地域との交流を広げていく。また同フォーラムへの学外参加者を20名以上に増やす。